

留学体験記(マルティンルター大学ハレ・ヴィッテンベルク)

人文・文化学群比較文化学類

Y.K.

【はじめに】

私は 2013 年の 9 月から 2014 年の 8 月まで、Sachsen-Anhalt 州にある Martin-Luther-Universität Halle Wittenberg に一年間の交換留学をしました。この留学体験記では、準備・授業・ハレでの生活などについて私が経験したこと、学んだこと、そして今後ドイツ、特にハレへの留学を考えている方への具体的なアドバイスなどをお伝えしたいと思います。

【ハレの街について】

この項目を最初に持ってきたのは、大方誰もハレについてよく知らないだろうと思われるからです。他の協定校があるベルリンやボンと比べると知名度は非常に低いですが、学生として生活するには快適な街だと思います。人口 20 万人程度でつくば市と同規模ですが、生活しやすさは断然ハレのほうが上です。街中にトラムの路線が張り巡らされていて大体どこでもトラムで行けますし、大きくはない街ですから移動時間があまりかかりません。(トラムについての詳細は後述の【交通】の項目をご覧ください。)生活に必要な買い物に困ることもありません。Marktplatz の周辺なら市場・郵便局・銀行・市役所・デパート・薬局・雑貨屋・服屋なんでもあります。友達の家遊びに行くにも、トラムで多くとも 1 回の乗り換えで行けます。しかし都会ほど大きくないので、田舎っぽいのんびりとした雰囲気です。生活費はドイツの中でもかなり安いほうです。家賃はだいたいどこでも一部屋月 200 ユーロ～250 ユーロです。ドイツはヨーロッパの中でも食材が安いほうで、その上ハレはレストランやインビスなどの外食費も、大都市と比べたら 3 割くらい安いです。学生が生活するにはかなりいい条件の町だと思います。

【出国前の準備】

5 月頃に Sommersemester の留学申込み締切があるので、それまでにアプリケーションフォーム(留学生として在籍するためのものと、夏休み中の準備語学講座用 2 枚)と、現地で通用する保険の証明等必要な書類を揃えて、ハレ大学担当の木島先生を通じて先方に送ってもらいました。私は筑波大学からハレ大学へ派遣される初の留学生だったので、書類の不備があつて再度提出を求められたり、申請について分からないことがあつたりと、少々慌ただしかったです。木島先生が先方の留学生担当の方とコンタクトをとってくださって、無事申し込みを終えました。

Studentenwerk という組織が運営している学生寮への申し込みも同時期に申し込みを行い

ました。こちらは書類送付ではなくインターネット上で申し込むので、自分一人でやりました。出国前に一番問題になったのが住居でした。入居希望日の解答欄があったので、9月の初週を選びました。しかし出国2週間前程になって、Studentenwerk から連絡があり、「入居は10月から可能です」ということでした。私は9月7日から3週間の語学講座を控えていたので9月からハレに住む必要があり、焦りました。幸い、ハレ大学から筑波大に留学していた友人がいたため、住居を紹介してもらい、無事9月から入居することができました。また、私は間に合いませんでしたが、早めに申し込めば、準備語学講座期間中ホームステイすることもできます。

【各種手続き】

学校での学籍登録や、市役所での市民登録、外国人局での学生ビザの申請、銀行口座の開設など、留学生として生活するのに必要な各種手続きは、10月の初旬に行いました。複雑な手続きもありましたが、ハレ大学の国際オフィスから Buddy をつけてもらっていたので、彼女のサポートのおかげで無事手続きを終えました。また、Japanologie の生徒たちにも助けられました。彼らは日本人との接触を頻繁にとっていて、彼らの中には毎年日本人留学生の手続きをサポートしている方もいました。また、国際オフィスの職員は大変親切で、問題がある時に相談に行くと親身になって聞いてくれます。それから、手続き時には様々な書類（パスポート、証明写真、経済能力証明等）や、登録に必要なお金（学籍登録料 170 ユーロ程、外国人局登録料 100 ユーロ程、等）を忘れずに持っていけるよう、きちんと事前に用意しておくべきだと思います。何がいつ必要かは、ハレ大学から送られてくる書類に書いてありますし、ハレ大学ホームページでも見られるようになっているので、事前に知ることができます。

【準備語学講座】

3週間のコースです。初日にテストがあり、2クラスに分けられます。上級クラスは文法知識もあり、それをコミュニケーションで活用する能力のある、ハイレベルな学生がいました。下のクラスの学生は様々で、文法知識はあるけど発音が苦手な学生、専門書は読めても日常会話が苦手な学生、一度もドイツ語を勉強したことない学生等、多種多様でした。私は下級クラス入れられて最初はショックでしたが、上級コースが10人程の学生に一人の先生だったのに対し、こちらは6人の学生に一人の先生だったので、みっちり教えてもらうことができ、講座が終わった時には自分の予想以上に上達していました。原則ドイツ語での授業ですが、最初どうしても分からないときには英語で説明してくれました。

【授業】

学期中のドイツ語の授業は、国際オフィスが開講しているクラスを週に2時間×2回、Sprachzentrum が開講しているクラスを週に2時間×2回受講していました。

内容は、文法はもちろん、ドイツの風土や文化、歴史、政治等について先生からお話を聞いて、それをもとに学生同士でディスカッションしたり、自国紹介のプレゼンテーションをしたり、映画をみたりと、色々な教材で勉強できました。Sprachzentrum のクラスは無料ですが、インターナショナルオフィスの授業は1学期につき120ユーロです。無料コースのみで勉強する生徒もいますが、私は有料コースを2学期連続で受講しました。有料のコースは夜間に行われるため、昼間の無料コースを受講できない留学生がたくさん来ます。様々な国・様々な専攻の留学生が集まるクラスは刺激的で、語学面でも文化的にも学びの多いものでした。逆に昼間の無料コースは、生徒の専攻がだいたい Germanistik か Kulturwissenschaft で、人数も制限されているため少なく、さらに日本人が9割といった授業も一部あったので、次第にマンネリ化していきました。

また、ドイツ人学生に交って、専攻の授業も受講しました。私は宗教学に興味があるので、Theologische Fakultät の授業を聴講しました。神学部ですが、宗教学の授業も開講されています。私が聴講した授業の一例としては、「キリスト教の多様性」「宗教と信仰心」「教会の歴史」といったものがあります。冬学期は、先生が何を言っているのかさっぱり分からないという状態が続き、また、講義の録音をもとにドイツ人の友達に助けてもらいながら復習をしても、全てカバーするには時間が足りず、絶望しかけました。しかし、諦め半分で投げやりに聴講を続けていたら、12月ごろ、ところどころ自力で分かるようになりました。聞くのも話すのも、この頃に上達を実感したのを覚えています。夏学期は更に聞き取れるようになって、とても授業が楽しくなりました。

ハレ大学の校舎は街中に散らばっていて、授業によって場所が異なります。また、神学部の講義だからといって必ず神学部の校舎で行われるとも限りません。いずれもトラムで行ける範囲内ですが、科目一覧で教室名を見て、インターネット上のキャンパスマップで確認する必要があります。

【交通】

トラムは朝4時頃から深夜1時頃まで走っていて、週末は深夜1時から朝4時の間でも最低一時間に一本はあります。運賃は、ハレ大学の学籍登録料に含まれていて、乗り放題です。学籍登録料は一学期につき170ユーロです。しかもこの料金でDB(Deutsche Bahn)の電車でライプツィヒまで行けますから、かなりお得です。(通常価格でライプツィヒまで行くと、片道7ユーロ程度。) というのも、ハレから他の都市に電車で行くとき、結構な確率でライプツィヒ乗り換えなのです。ちなみに、ハレからドイツの近隣都市への所要時間ですが、ベルリンまでは1時間半、ドレスデンは2時間半程度です。ただしこれは一番高速のICEに乗った場合なので、REなどのローカル線の場合はプラス1時間くらいかかります。ライプツィヒまではどの電車でも20分~30分で着きます。もし頻繁にDBの電車に乗って出かける方は、BahnCardを買うといいと思います。バーンカードは数種類ありますが、BahnCard50の場合、購入時に120ユーロ程払いますが、運賃がいつでも50%割引になり

ます。それか、早めに予定を立てられる方はバーンカードを買わなくても、早割のチケットを購入されるとかなり安いです。また、ハレの近くには空港もあります。**Leipzig/ Halle Flughafen** です。私は出国してから、成田→フランクフルト→ライプツィヒ/ハレ空港という経路で移動しました。ルフトハンザ便はもちろん、各国の主要都市までの格安航空便も発着しているので、結構便利です。

【住居】

Studentenwerk という組織が運営している学生向けの住居に住んでいました。**Studentenwerk** に申し込んだ日本人学生の大多数が **Landrain** という寮に住むことになるようです。ハレの学生寮の中では一番新しく、モダンで開放的なデザインの建物です。家賃は一か月 200 ユーロ程度でした。私は 4 人用 WG に住んでいましたが、ドイツ人 2 人と、日本人 1 人と同居していました。私のように日本人と同じ WG になるのは稀のようで、私たち以外の日本人同士が同居してるケースは見かけませんでした。ただ、**Landrain** に住む限り、WG の外でも日本人にしょっちゅう出くわすことは間違いないので、留学中にどうしても日本語を話したくないという方は、申込時に他の寮への入居希望を出しておいたほうが良いと思います。寮の選択はできても、部屋の選択はできないようです。私の場合特に希望を出さなかったため、自動的に **Landrain** になり、ランダムで部屋を割り当てられました。私は一年間引っ越しをせずに **Landrain** に住み続けましたし、WG や **Landrain** で会う日本人と日本語で話しましたが、それが私の留学生活にマイナスの影響を及ぼしたかという、そうは思っていません。ドイツ人と会うときはドイツ語、日本人とは日本語、ときっちり分けていましたし、自分からドイツ人の中に入っていく努力をしていたので、日本語ばかり喋ってしまう、という状況には陥りませんでした。また、日本人同士で、ドイツに来て思ったこと考えたことの情報交換をタイムリーに行うことは、翌日からの自分のドイツ生活に新しい視点を与えてくれて、多角的にものを見ることができるようになったと感じています。

【友達】

ハレでどのような交友関係の広げ方があるかという一例をお教えします。私の場合、同居人、**Japanologie**、**Buddy** を起点にして友達の輪を広げていきました。同居人がうちの WG でパーティーを開いた場合、そこに参加して同居人の友達と知り合うことができました。また、夏休みには同居人の実家に泊まりに行ったので、彼女の弟さん、ご両親、おじいちゃんおばあちゃんとご飯を食べたり散歩したりして、幅広い年代の方とお話することができました。**Japanologie** は二週間ごとに **Stammtisch** (ゲームをしたりお酒を飲みながら話す会) を開いているので、そこではたくさんの **Japanologie** 学生と友達になって、タンデムをするようになりました。**Buddy** を介して知り合った人々も面白くて、彼女の誕生パーティーに参加していたドイツ人 10 人が **Sachsen-Anhalt** 州と **Thüringen** 州出身だったので、対西ドイツを意識して東ドイツトークで結託したり、反対に二つの州でお隣同士のライバル意識

があるらしくお互いにけなしあってお喋りしていました。ハレは旧東ドイツ出身の学生が多いので、東ドイツ的ドイツ観を聞くことができおもしろいですよ。

【休暇】

2月・3月は冬休み、8月・9月は夏休みです。休暇中はヨーロッパ中をまわったり、足を延ばしてトルコとイスラエルに行ったりしました。実際に訪れてみると、日本から見たヨーロッパのイメージと実際のヨーロッパは大きく違いました。ヨーロッパとひとくちに言っても、気候も異なれば宗教も異なりますし、それによって文化も大きく違いました。たとえばドイツ周辺では厳しくてさみしい自然と質素な教会、といった風景を見てきましたが、スペインやイタリアは暑くてからっとした気候で、建築はカトリックのごてごてしてあつかましいものでした。特にスペインはイスラム文化の影響もあり、オリエンタルな雰囲気、いわゆるヨーロッパっぽさというのがない所もあり、最も私のヨーロッパ観を変えてくれた国です。また、トルコ・イスラエル旅行は、ドイツで西洋文化に浸かっていた私にとってとてもいい気分転換になりましたし、中東文化に触れてドイツやヨーロッパを新たな視点から考え直すきっかけにもなりました。様々な国で体験して得たものはとてもここでは書ききることができません。ドイツに留学するなら他国に旅行することをお勧めします。遠い日本から旅行で行くのと、ドイツから近隣の国へ行くのでは大きな違いですから…。また、先ほども触れましたが、冬休みも夏休みも、友達の実家へ遊びに行きました。冬休みにお世話になった所は地域一帯農家ばかりだったので、農業を体験させてもらったり、友達の幼馴染が経営しているバイオガスピラントを案内してもらったりしました。農家の方のエコ意識や自然環境に対する考えを詳しく聞くこともでき、大変勉強になりました。田舎での体験は留学だからこそできたもので、意義深いものだったと思います。

【おわりに】

ドイツで過ごした一年間はかつてないほど充実した日々で、自分の想定以上に実りのあるものとなりました。私が留学で得たものは決して楽しい思い出といった一過性のものではありません。留学前には持っていなかった視点、思考方法、知識を得て、世界観ががらりと変わってしまいました。それほどに海外での生活は強烈なものです。出発前はいろいろな不安があるかもしれませんが、行ってしまえば一年間くらい、楽しくても苦しくてもなんてことはありません。それに、TestDaf等の語学試験もパスせずに身分を保証されてドイツで生活できるなんて、きっと交換留学だけですから、今留学を考えている人は是非チャレンジしてみてください。